

ベン＆ホリー

ロイターマン アリス

こびとの男の子 ベンと、女の子のホリーは、
友だちのてんとう虫 ギャストンとはちのボビビーと
ボールあそびをしていたら、あおむしのタピーに
あいました。

そして五人でかけっこの きょうそうをしました。
そしたら、タピーが一ばんになりました。

それからギャストンが とくいわざをみせました。
それはとぶことです。

タピーがそれを見て うらやましすぎて なきました。
そしてホリーが、

「わたしが まほでとべるように してあげるわ。」
と言いました。ベンが、

「ほんとうにできるの。」
と言いました。ホリーがまほうのことばをいって

タピーがういたのですが なぜかスピードがでませんでした。
ホリーが、

「もういっかい まほのことばをいうわ。」
ベンが、

「それは、 やめたほうがいい。」
ホリーが、

「なんで。」
ベンが、

「またしっぱいするかもしれない。だけどぼくがはっぱにのってせいこうするかもしれない。」

といいました。

どうゆうことか、ホリーはいみがわかりません。

でもうなずきました。

ベンがそれをやったのですが、とまったかとおもいきや、

またはじまったのです。

そこにホリーの王さまがきました。そして王さまに止めてもらいました。

王さま「どうしてこんな生きものにまほうをかけるんだ。」

ホリー&ベン「だってとびたがってんだよ。」

と二人はいいました。王さまは二人に、

「タピーにはっぱをいっばいたべさせればとぶよ。」

ベン「じゃあふたりではっぱとりにいこうよ。」

ホリー「うん。」

かえってきた二人は、タピーにはっぱをたくさんあげました。

タピー「あむあむあむ。」

ホリーは、

「ちよつとふとりすぎてない。」

ベンも、

「うん。」

父王さまは、

「これでおっけーだ。」

と言いました。

そして、

「リーンリーン ホリー 帰るよ。」

「ブーブー ベン もう帰るぞ。」

ベン「じゃあ 父王さま、ホリー、またあした。」

ホリー「タピー またあした。」

いえに帰ってホリーはしんぱいでした。

ホリー「ねえ、ママ。パパがいったとおりにしたんだけど、ほんとなの。」

ママ「なにいつてるの。パパは王さまよ。」

つぎの日、二人はいそいでタピーのところへ行きました。

ホリー「ベン、ベン。」

ベン「ホリー、ホリー。」

ホリー「ねえ ベン、タピーは？」

ベン「知らない。」

ホリー「ねえ なにあれ。」

ベン「わからないけど。」

タピー「タピー。」

ベン「いつもとおんなじ……。」

ホリー「ベン、タピーにはね。」

ベン&ホリー「そっか。タピーは ちょうど。」

ホリー「もう みんなとべるね。」

ベン「ぼくは とべない。」

父王「ベン、こびとは てんとうむしにのって

とべんじゃないの。」

ベン「そっか、ギャストン。これでみんなとべるね。」